

グローバル・メタン・プレッジ（GMP）に係る考え方

2021年9月25日

外務省・農林水産省・経済産業省・環境省

メタンは地球温暖化係数の高い温室効果ガスであり、パリ協定の目指す世界の脱炭素化に向け、世界におけるメタン排出の削減は国際的に重要な課題である。こうした中で9月17日に開催された主要国経済フォーラム（MEF）においてバイデン大統領から言及されたグローバル・メタン・プレッジは、世界全体のメタン削減に向けた政治的機運を高める上で有意義なイニシアティブである。

我が国も、これまで長年にわたり、メタン排出削減に向けた不断の努力を続けてきた。その成果が実を結び、2019年度において、1990年度比約35%削減、2013年度比でも約5.4%削減を実現し、他国と比較しても我が国のメタン排出量は米国の約23分の1及びEUの約15分の1、人口一人当たりの排出量では米国の約9分の1及びEUの約4分の1と、既に相当低い水準を達成している。

今般のグローバル・メタン・プレッジは各国に個別の目標やセクター別のコミットメントを求めるものではなく、世界全体での削減目標を設定しており、本プレッジへの参加に伴い、現在策定中の地球温暖化対策計画をはじめとする日本の取組に加えて、追加的取組を実施する必要性が生じることにはならない。我が国としては、新たな地球温暖化対策計画政府原案（2021年9月3日地球温暖化対策推進本部決定）において、2030年度までにメタン排出量を2013年度比11%削減（2019年度比6%削減）することを掲げているところであり、同計画が策定されれば、これに掲げられた対策を強力で推進していく。

また、メタン削減のフロントランナーである我が国に対しては、特に、国内でメタンの排出削減に成功した取組を優良事例として各国に共有する等のイニシアティブが期待されている。かかる観点から、我が国としてグローバル・メタン・プレッジに参加するとともに、こうしたイニシアティブを含む各種取組を通じ、世界の脱炭素化に向けて、引き続き我が国としてリーダーシップを発揮していく。